

科 目 名	身体障害作業療法学【作業】					開 講 キャンパス	神 埼
担 当 者	田 平 隆 行・植 田 友 貴						
開 講 年 次	3	開講期	通年	単位数	2	必修・選択	必 修（作業）
授業の概要 及びねらい	身体に障害をもたらず代表的な疾患を各週のテーマとし、その疾患（症例含む）に対して治療目標および治療プログラムの立案を中心に解説する。加えて、脳血管障害例を用いた治療計画立案の演習を行う。また、各種の治療に関する論文などの情報を収集し、応用することによって対象者により良い作業療法が提供できることについて解説する。全体を通して、専門用語を用いた報告書の作成を指導する。						
授 業 の 到 達 目 標	各種疾患から生じる心身機能・能力障害と生活上の障害との関連性が説明できる。 身体機能・能力の障害、生活上の障害に対する作業療法評価を列挙できる。 評価結果から対象者の利点と問題点を整理できる。 治療の優先順位を考慮して治療目標を立案できる。 治療目標に沿った具体的な治療目的と方法を立案できる。 身体機能・能力障害、生活障害に対するリハビリテーション、作業療法の情報を検索できる。 検索した情報と症例の治療を対比させ、論理的に考察することができる。 専門用語を用いて適切に報告書を作成できる。						
学 習 方 法	講義・演習（レポートも含む）						
テキスト及び 参考書等	【テキスト】日本作業療法士協会（編）作業療法学全書第4巻 作業治療学1 身体障害 協同医書出版、Pedretti LW 身体障害の作業療法（改訂第4版）協同医書出版、石川 斉 古川宏（編）図解作業療法技術ガイド第2版 文光堂 【参考書】「リハビリテーション」「作業療法」「日常生活活動」に関する書籍や論文など						
評 価 基 準 ・ 方 法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	○	◎					60
小テスト等	◎						20
宿題・授業外レポート				○			10
授業態度				○			10
受講者の発表							
授業への参加度							
その他							
合 計							100
（表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点）							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
前 期	第1週	身体障害と作業療法について（身体障害とは何か、作業療法は何を治療するのか、作業療法ガイドライン）					
	第2週	脳血管障害の作業療法評価1					
	第3週	脳血管障害の作業療法評価2					
	第4週	脳血管障害から生じた障害のまとめと治療優先順位・治療目標の決定、治療理論の選択と実施					
	第5週	脳血管障害の作業療法プログラム1					
	第6週	脳血管障害の作業療法プログラム2					
	第7週	脳血管障害の作業療法プログラム3					
	第8週	外傷性脳損傷の作業療法					
	第9週	パーキンソン病の作業療法1					
	第10週	パーキンソン病の作業療法2					
	第11週	脊髄小脳変性症（運動失調症）の作業療法1					
	第12週	脊髄小脳変性症（運動失調症）の作業療法2					
	第13週	筋萎縮性側索後遺症の作業療法					
	第14週	多発性硬化症の作業療法					
	第15週	まとめ					
	第16週						
後 期	第1週	関節リウマチの病態、障害像、作業療法評価と目標設定					
	第2週	関節リウマチの作業療法、症例検討					
	第3週	熱傷の病態、障害像、作業療法評価と目標設定、作業療法、症例検討					
	第4週	上肢・下肢の切断と義手・義足の作業療法1					
	第5週	上肢・下肢の切断と義手・義足の作業療法2					
	第6週	上肢・手の外傷の作業療法1					
	第7週	上肢・手の外傷の作業療法2					
	第8週	末梢神経損傷の作業療法1					
	第9週	末梢神経損傷の作業療法2					
	第10週	脊髄損傷の作業療法1					
	第11週	脊髄損傷の作業療法2					
	第12週	内部障害（循環器・呼吸器疾患・糖尿病・腫瘍）の作業療法1					
	第13週	内部障害（循環器・呼吸器疾患・糖尿病・腫瘍）の作業療法2					
	第14週	内部障害（循環器・呼吸器疾患・糖尿病・腫瘍）の作業療法3					
	第15週	まとめ					
	第16週						
備 考	各疾患の基礎的知識は理解していることを前提に講義を進めるので、講義時間以外でも疑問点を自ら調べる「努力」を求める。到達目標に示したとおり、毎回の講義内容を覚えるのではなく「理解」するよう努めて欲しい。そのために、まずは全体的な作業療法の流れをつかみ、その後に細かな知識や技術を習得して欲しい。授業外学習の指示 シラバスに沿って翌週の講義内容を予習し受講すること						